卸売市場の将来像

東京農業大学　国際食料情報学部　教授　藤　島　廣　二

現在、卸売市場法の改正案が国会で審議されている。参議院での審議は既に終了し、同改正案は４月９日に通過したが、衆議院を通過するのが５月後半か６月初めごろと予想されており、いずれにしても審議はまだしばらくの間続くことになっている。

小稿では、このように審議中であることを考慮して、同改正案に対する直接的な批評は差し控え、筆者がこれまで様々な場で提案してきた10年後・20年後の卸売市場のあり方について、その中から一つだけを取り上げ、幾分か詳しく述べることにしたい。と言うのは、同改正案のあり方を討議したとされる「食品流通の効率化等に関する研究会」において、卸売市場の今後のあり方（将来像、ビジョン）あるいは卸売市場法改正の大義について十分に議論したとはとうてい考えられないからである（2003年６月10日付「農業協同組合新聞」に掲載された同「研究会」高橋座長と筆者との対談において、高橋座長は卸売市場のビジョンは規制緩和に反するとの理由から、その必要性を否定された）。

さて、卸売市場の今後のあり方を考えるに当たって今日最も重視すべきは、社会全般の消費生活（以下では消費生活の中でも特に食生活の面に注目する）の豊かさの増進に寄与するか否かであろう。ここでの「豊かさの増進」とは「おいしいものを、食べたいものを、より多く食べることができるようになること」であるが、「食べたいもの」はもちろんのこと、「おいしいもの」もすべての人々にとって同じもの（同一種類で同一品質の食べ物）ではない。したがって、「豊かさの増進」をより的確に表現すれば、「各人がおいしいと思うものを、食べたいと思うものを、より多く食べることができる機会を増やすこと」、すなわち「各人が選択できる食べ物（食品）の種類を増やし（同じ種類の食べ物であれば品質面の多様化を進め）、かつまた同じ種類の食べ物でも品質差等に応じて価格を変えること等によって、いわば『消費者（購入者）が選択できる幅』を拡大するとともに、それぞれの消費に必要な数量を確保できるようにすることである」と言えよう。

この「豊かさ」を増進する上で、卸売市場が果たすべき役割は多いと考えられるが、最も重要なことは、流通を一段と効率化し、生産者から消費者に渡るまでのコストを極力削減することであろう。なぜなら、これによって流通業者は従来と同じコストで従来よりも遠い産地の生産物（青果物等の食べ物）を供給でき、また従来と同じ産地の同じ生産物であれば従来よりも低いコストで、すなわち従来よりも低い価格で提供することができるようになり、その結果、消費者は同額の支出で食べ物を選択できる幅が拡大し、欲する食べ

物の入手量を増やすことが容易になるからである。

こうした役割をより十全に果たすために、卸売市場は今後、機能の高度化をこれまで以上に進めなければならないが、その際、最も重視すべきは大量一括荷受を推進することであろう。大量一括荷受けの推進とは、例えば現在の多くの卸売市場で見られる10トン車での荷受を、20トン以上のトレーラーでの荷受に変えることである。もちろん、そのためには大量の荷をスムーズに積み降ろしするための施設と訓練された人の配置とが必要であるが、そうした変更によって輸送コストを大幅に引き下げることが可能となるのである。実際、トレーラー輸送を行っている佐賀県産タマネギの場合、同県から東京までの１kg当たり運賃は10トン車での輸送に比べると半分になるとのことである。しかも、大量輸送の実現は輸送コストの削減だけでなく、生産規模の拡大による生産コストの削減にも寄与するものと言える。

上述のような機能の高度化は、当然、現在開設しているすべての卸売市場において実現しなければならないものではない。現在の中央卸売市場数を大幅に下回る数の卸売市場において実現すれば十分であろう。ただし、そのことは卸売市場の統廃合によって高度の機能を有するごく少数の卸売市場だけを開設すれば、それで十分と言うことではない。もしも、ごく少数の大規模卸売市場だけになってしまうならば、大量出荷が困難な小規模生産者あるいは小規模産地の場合、卸売市場向け出荷を取り止め、そうした生産者・産地からの多様な生産物の供給が不可能になる一方、大量仕入れができない小規模小売店の存続も危うくなるなど、消費者が食べ物や購入先店舗を選択する幅は逆に狭める可能性が強まってしまうと考えられる。すなわち、大量一括荷受と言う機能の高度化を推進する場合、その機能を体現する卸売市場は少数の大規模卸売市場でよいものの、そうした卸売市場とともに、小規模産地や小規模小売店等にも対応できる比較的多数の小規模卸売市場も存続することが重要なのである。

しかも、かかる大規模卸売市場と小規模卸売市場とは決して対立するものではなく、相互に補完し合う関係が成り立つとみられる。と言うのは、大規模卸売市場の場合、大量一括荷受を推進するために、単品または少数品目での大量仕入れを望む加工業者等に直接に販売すると同時に、小規模卸売市場へも分荷・供給を行わなければならないし、小規模卸売市場の場合は小規模小売店等の仕入れにより十全に対応できる豊富な品揃えを実現するために、小規模産地や小規模生産者から荷を受けるだけでなく、大規模卸売市場の分荷にも依存せざるを得ないからである。もちろん、単に補完関係が成り立つと言うだけでなく、その関係を強化することこそ、卸売市場が食生活の豊かさの増進にますます寄与することにつながるものと言えよう。

以上のように、「豊かさの増進」の視点から卸売市場の今後のあり方を考察すると、少なくとも一つには大量一括荷受を推進しうる機能の高度化を進めるべきであり、もうひとつには上記の大規模卸売市場と小規模卸売市場の補完関係のような、機能分担による卸売市場間の連携を強化すべきであろう。

E-mail：hiro24@beige.ocn.ne.jp